

慶応二年四月廿四日より慶応二年四月廿七日まで

P8310587_right

出懸け礪川山本へ移居の賀並欧行帰着後始めて行く、酒肴を享せらる、登城金川引合の件、並建白す、礪川より鯁一重硯蓋(すずりふた)物一重、今朝扱の内也とて贈り越す并箱館飯田方より

雁書届きに志ん(鯁)乾魚数匁、昆布一把贈り越すとて相届く旨、山本(晋)来り時周助へ命直し趣同人より申談せし旨、松盛亭稽古に来る、保三来り夕餐を出す、金港早川□州よりロセスより出せし償金返却策カシヨン手紙添届く

二十五日 寅 晴

森本□初来たり面す、凡、笠原(常)鶏卵一箇持来る過の謝也、出殿、抱屋敷の儀に付(治定の儀名主報告の事)正覚来りし旨、太郎次郎同道、礪川へ行く時□□に鯁節箱小遣す長蔵来り抱やしき凶肥後作縁頭持参、但過日買入の小道具つり持参

P8310587_left

廿六日 卯 晴雲

宅調、(周助より)田名辺(仁)、可愛、石野より金子(秀)(魔骨)初て来り面す、松盛亭稽古に来る、長蔵昨夕持来り、

□銀違ありし家内来る清弄遣す、但刀金はばき附同鉄鏝縁頭揃え注文申付方外に錫、銅小鏝(四文)

銅縁頭老組返し遣す、妻儀番町へ年賀に行、鳴海絞り一反鮓一重箱館昆布持参、抱屋敷

地守りの儀に付周助を須崎へ遣す、此よし女帰着尋問を主とす、番町辺出火に付、永持水野(良)

新藤へ見舞に

使者遣す、欧州一行五人へ昼食の代として鰻一ずつ銘々へ使差遣す、

廿七日 辰 晴夕前陰

抱屋敷相談治定の儀に付、屋敷改西尾へ周助遣す、且この日向井より同氏抱屋敷買入の節□記借受る、

諏訪(飛)初めて来り面す人柄可見、出殿坂地長坂半より冠緒老通箱入清□届く、減税書の儀に付

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。